

学者と名誉

夏目漱石

青空文庫

木村項の発見者木村博士の名は驚くべき速力を以て旬日を出ないうちに日本全国に広がつた。博士の功績を表彰した学士会院とその表彰をあくまで緊張して報道する事を忘れなかつた都下の各新聞は、久しぶりにといわんよりはむしろ初めて、純粹の科学者に対し、政客、軍人、及び実業家に譲らぬ注意を一般社会から要求した。学問のためにも賀すべき事で、博士のためにも喜ばしき事に違ない。

けれども今より一ヶ月前に、この木村博士が何処に何をしているかを知っていたものは、全国を通じて僅か百人を出ぬ位であつたろう。博士が忽然と著名になつたのは、今までまるで人の眼

に触れないで経過した科学界という暗黒な人世の象面に、
一点急に輝やく場所が出来たと同じ事である。其所が明るくなつ
たのは仕合せである。しかし其所だけが明るくなつたのは不都合
である。

一般の社会はつい二、三週間前まで博士の存在について全く神
経を使わなかつた。一般的の社会は今日といえども科学という世界
の存在については殆んど不関心^{ふかんしん}に打ち過ぎつつある。彼らから
見て闇^{やみ}に等しい科学界が、一樣の程度で彼らの眼に暗く映る間は、
彼らが根柢^{こんてい}ある人生の活力の或物に対しても公平に無感覚であつ
たと非難されるだけで済むが、いやしくもこの暗い中の一点が木
村項の名で輝やき渡る以上、また他が依然として暗がりに静まり

返る以上、彼らが今まで所有していた公平の無感覺は、俄然とし
て不公平な感覺と變性しなければならない。これまでにはただ無
知で済んでいたのである。それが急に不德義に転換するのである。
問題は単に智愚を界する理性一遍の牆を乗り超えて、道義の圈
内に落ち込んで來るのである。

木村項だけが炳として俗人の眸を焼くに至った變化につれて、
木村項の周囲にある暗黒面は依然として、木村項の知られざる前
と同じように人からその存在を忘れられるならば、日本の科学は
木村博士一人の科学で、他の物理学者、数学者、化学者、乃至動
植物学者に至つては、単位をすら充たす事の出来ない出來損ない
でなければならない。貧弱なる日本ではあるが、余にはこれほど

までに愚図ぐずが揃そろつて科学を研究しているとは思えない。その方面の知識に疎うとい寡聞かぶんなる余の頭にさえ、この断見だんけんを否定すべき材料は充分あると思う。

社会は今まで科学界をただ漫然と暗く眺めていた。そうしてその科学界を組織する学者の研究と発見とに対する対しては、その比較的価値所か、全く自家の着衣喫飯ちやくいきつぱんと交渉のない、徒事いたずらごとの如く見檄みなして來た。そうして学士会院の表彰に驚いて、急に木村氏をえらく吹聴ふいちょうし始めた。吹聴の程度が木村氏の偉さと比例するとしても、木村氏と他の学者とを合せて、一様に坑中こうちゆうに葬り去つた一ヶ月前の無知なる公平は、全然破れてしまつた訳になる。一旦木村博士を賞揚しょうようするならば、木村博士の功績に

応じて、他の学者もまた適當の名譽を荷うのが正当であるのに、他の学者は木村博士の表彰前と同じ暗黒な平面に取り残されて、ただ一の木村博士のみが、今日まで学者間に維持せられた比較的地位を飛び離れて、衆目の前に独り偉大に見えるようになつたのは少なくとも道義的の不公平を敢てして、一般の社会に妙な誤解を与うる好意的な悪結果である。

社会はただ新聞紙の記事を信じている。新聞紙はただ学士会院の所置しょちを信じている。学士会院は固もとより己おのれを信じているのだろう。余といえども木村項の名譽ある発見たるを疑うものではない。けれども学士会院がその発見者に比較的位置を与える工夫くふうを講じないで、徒いたずらに表彰の儀式を祭典の如く見せしむるため被賞者

に絶対の優越権を与えるかの如き拳に出でたのは、思慮の周密^{しゆうみ}と弁別^{べんべつ}の細緻^{さいち}を標榜^{ひょううぼう}する学者の所置としては、余の提供にかかる不公平の非難を甘んじて受ける資格があると思う。

学士会院が栄誉ある多数の学者中より今年はまず木村氏だけを選んで、他は年々順次に表彰するという意を当初から持つているのだと弁解するならば、木村氏を表彰すると同時に、その主意が一般に知れ渡るよう取り計らうのが学者の用意というものであろう。木村氏が五百円の賞金と直径三寸大の賞牌^{はくばい}に相当するのに、他の学者はただの一錢の賞金にも直径一分の賞牌にも値せぬよう俗衆に思わせるのは、木村氏の功績を表するがために、他の学者に屈辱を与えたと同じ事に帰着する。

明治四四、七、一四『東京朝日新聞』

青空文庫情報

底本：「漱石文明論集」岩波文庫、岩波書店

1986（昭和61）年10月16日第1刷発行

1998（平成10）年7月24日第26刷発行

入力：柴田卓治

校正：しづ

1999年8月13日公開

2003年10月10日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

w.aozora.gr.jp/) で作られました。入力、校正、制作にあたつたのは、ボランティアの皆さんです。

学者と名誉

夏目漱石

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>